

## 江戸の遊び絵づくし展

みかけはこわいが遊び尽くした楽しい浮世絵だ

神奈川・茅ヶ崎市美術館 2019.09.07～11.04



上図 歌川芳藤：《五拾三次之内猫の怪》

町人文化が花開いた江戸時代は、「浮世絵」が大いに人気を博したという。

「浮世絵」といえば、美人画、役者絵、名所絵という印象を持たれがちであるが、様々に展開された江戸の出版文化を代表する「浮世絵」の魅力はそれだけにとどまらない。本展は、江戸の絵師と版元が趣向を凝らして手掛けた“ユーモアとウィットにあふれた「遊び絵の世界」取り上げて、「謎解き」、「隠し絵」、「文字絵」など7つの章から作品を紹介している。そして、「遊び絵 110点」が紹介された会場では、遊び絵を体験できるコーナーもあるため、見て、読んで、触ることで当時の人々がどのような「遊び絵」を面白がり、親しんでいたのかが想像されて、幅広い世代で江戸の遊びを共有することができる。

代表的な展示作品「3点」を紹介する。



左 歌川芳藤：《みかけ八こ八ろがとんだいゝ人だ》



中 歌川貞景：《五子十童図》



右 歌川芳藤：《有掛絵 ふ尽しの福助》